

An illustration of a man with a large, rounded body. He is wearing a red long-sleeved shirt and dark green shorts. On his chest is a large white rectangular sign with Japanese text. He has a surprised or thoughtful expression. The background is a soft, yellowish glow. Various objects are scattered around him: a blue pencil, a slice of orange, a slice of watermelon, a slice of pizza, and a small bird with a branch of holly leaves.

輝くきみに  
届けたい  
11通の手紙

—— 愛と性について ——

女子パウロ会

Part I 思春期の間のなかで

1 劣等生讃歌

勉強も部活もつまらない。が、心の奥でなにかが燃えている！

やなせたかし

2 いじめ・孤独・友情を、いま、みつめる

いじめの現場を見てもなにもできず、そんな自分がなげきない

田村賢一

3 高まる性への関心とたたかい―男子のからだと心の変化

ほくの性欲は異常です、きつと病気です

倉光誠一

4 とまどいと寂しさときめきと―女子のからだと心の変化

自分でもわからない、昨日とちがう今日のわたし

小山友江

Part II 性とは？

5 性と愛へのめざめのとき

自然な男女の関係があらゆる雑音でゆがめられてゆくなか

吉山 登

6 性を、「いやらしい、恥ずかしい、汚い」というあなたへ

苦しいとき、悲しいとき、ひとは抱きあつて相手を受けとめるもの

滝口佳津江

7 本当にかかわることがなければ、生きていない……………押田成人 119

男と女は補いあい、助けあうようにできている、仕合わせになるために

Part III 男女交際について

8 問題は年齢ではなく、交際のしかた……………三浦太郎 129

中学生の恋愛は早すぎますか？

9 背のびしたいキミへのアドバイス……………中野吉宏 139

彼(彼女)がほしいという気持ちはよくわかるけど

10 白いベールの下に花嫁は天空をとぶ翼をたたく……………永知道子 149

あなたはいま、翼をひろげ、のびやかに、まっさおな空へ！

詩●愛するということ 金森三千雄 160

§ 11 性に関係のあるからだのしくみと病気……………新美津一 163

生命の誕生、性病、アルコール依存症について



## 高まる性への関心と たたかい

——男子のからだと心の変化——

倉光誠一（くらみつせいいち）

疲れた心にとっての唯一ひくいっの救い

それは他のひとへの愛。

愛によってひとは愛するひとの心を自らの住まいとし  
彼らはひとつの心となる。

J.O.Y.ガッツセット

どうしてほくだけ  
こんなに性欲のことで  
苦しまなければならないんでしょうか。  
ほくの性欲は異常です、  
きっと病気です。



### 成績表とともに愛をこめて

諸君がこの中学に入學してきたばかりのとき、担任であるわたしと同じくらしい身長が生徒はふたりしかいませんでした。休憩時間のたびに幼稚園かと思われそうなかん高い声が校舎の前からひびいてくるし、乳歯の残っている生徒もたくさんいました。

ところが中三のいま、諸君の多くはわたしの身長をはるかに超えました。身長の成長曲線は勾配にいくらか個人差があるものの、なめらかに連続したカーブです。

しかし、精神的な成長はまったくちがいます。少年期から「第二反抗期」をへて青年期にはいるこの時期は、甲殻類の脱皮や昆虫の羽化に似ているように思われます。これらの動物では、この時期に失敗して奇形になることもあるし、この時期の死亡率はかなり高くなります。セミやチョウの幼虫が羽化して成虫になるときの苦しもうにもがくような姿を観察したことがあるひともいることでしょう。

先日、始業式の日のことです。わたしのところに話しにきたひとりの生徒は、

「人間はなんのために生きているのでしょうか？ どうせやがて死んでしまうのに、なぜそんなに勉強しなければならないのですか？ 人生の意味や価値がわからないと勉強などやる気にならないのです」

と、真剣に問いかけていました。自分で意義や目的をみいだして勉強するようにするのが自立です。わたしはこの自立への悩みをたいせつにしたいと思うのです。いいかげんな解答でごまかさないうで、徹底的に考えてください。

また別なひとは、母親の過干渉からのがれようと苦しんでいます。もちろんお母さんは善意からですが、本人の自立をさまたげる干渉があまりにも強く、いろいろな反抗のカタチで表現するのですが、そのサインがお母さんに通じないのでどちらも悩んでいます。

またあるひとは、自分の性欲の強さを異常と考え悩み、苦しんでいます。このたまたかいは、若者があらゆる誘惑に負けない意志の強いおとな

に成長する機会として神さまから与えられたもので、けっして異常ではありません。

このたいせつな時期に反抗期が異常に長びき、いつまでも正常に自立できないひと、いいかげんな妥協に終わって底のあさい人間になってしまふひと、謙虚な反省ができず、漫然と怠惰にながれ、取り返しのがたなくなるまで気がつかないひとなど、脱皮に失敗するひとがひとりもなく、みんな残らず、明るくさわやかな青年として自立した高校生になつていくことを願っています。(これは、中三の生徒に二学期の成績表と同封して送った手紙の一部です。)

生物の先生が語る「だから思春期には……」

思春期に入ったきみにはいろいろな不安や悩みがありますが、それは脱皮にともなう苦しみです。その悩みのなかでいちばん大きいのは性に関するものです。たとえば「こども一〇番」の相談内容のいちばん多いのが性に関するもので、つぎが身体に関するもの、三番が男女関係と

つづきます。

思春期というのは第二次性徴の出現や、異性への性欲的な関心、恋愛感情などのめばえが急速におこつてくる時期だからです。それではこの思春期がどのようなものか、生物学的に見てみましょう。

生物の特徴は、個体の生命の維持と種族の維持の機能をそなえていることです。そのために食欲と性欲が本能としてわたしたちにそなわっているのです。

このうち食欲をみると、きみは生まれおちるとすぐに、だれに教わらなくても母親の乳房をすいはじめていらい、十数年一日も休むことなく食べつづけています。この食欲が満たされなければ落ち着かず、不愉快になる。そうでないひとがあれば病人です。

一方、種族維持のための本能のほうは、からだが十分に成長するまで、すなわち思春期になるまでは眠っています。これをめざめさせるのが脳下垂体の生殖腺刺激ホルモンです。このホルモンの刺激により、精巢のはたらきが活発になります。精巢の役目は精子をつくりだすことと、

男性ホルモンの分泌です。

春になるとウグイスがさえずり、多くの小鳥たちは巣づくりをはじめますし、秋にはシカが繁殖期をむかえます。これらの本能行動はこの生殖腺刺激ホルモンの分泌の周期的変化に支配されています。

ヒトでは思春期に達すると脳下垂体から生殖腺刺激ホルモンが分泌されはじめ、生殖腺すなわち精巣や卵巣が発達してきます。するとそこから性ホルモンが分泌されはじめて、その作用で第二次性徴が発達しますし、性欲もめざめてきます。これが何歳であるかは、ひじょうに個人差がありますが、だいたいきみたちのような時期です。

声変わりし、ひげがはえ、からだは急に大きくなり、おとならしくなってきました。このようなからだの変化だけではなく、精神的にも変化してきます。一人前のおとなとして取り扱ってもらいたいという独立心や自立を求める気持ちが強くなり、反抗期もおとずれます。

そしてほぼ十二歳から十四歳くらいでほとんどのひとが射精を体験しますし、強い性欲も感じますし、異性にたいする興味や関心も急に高

まってきました。

それと同時にブライバシーを求める気持ちや羞恥心もひじょうに強くなってきました。だれでも幼児のときにはすつ裸でひとまえに出ても平気でした。ふろ上がりにバスタオルをもつてお母さんが追っかけたかもしれませんが、子どもは裸のほうに気持ちよければ裸で走りまわるでしょう。しかし、きみはいま、下半身裸でひとの前に出るような恥ずかしいことには耐えられないでしょう。

この健全な羞恥心はたいせつなものです。性は人間のもつともブライバシーをたいせつにしたい部分、隠したい部分です。この羞恥心は健全なものであることを重ねて強調したいと思います。最近この健全な羞恥心まで否定するようなひともいます。

良識のあるひとはだれでも性のことなどひとまえでもあまり口にしたくないものです。だから、きみのご両親もあまり話そうとはなさらないでしょう。学校の先生もできれば避けたいと思われるかもしれません。

昔はそれでもよかったかもしれませんが、価値観が多様化し、倫理観

が混乱し、性の商品化や性産業などがはやり、マスメディアが発達して性に関する不健全な情報はらんらんしている現代の日本の社会では、青少年にたいする健全で、正しい性教育の必要が叫ばれるのも当然でしょう。

ここでひとつ付け加えておかねばならないことがあります。健全な羞恥心はたいせつなものだと思いますが、好んで性的なことを口にするHな友だちもときどきいますね。そのHを非常に軽蔑するまじめなひとのなかに、必要なときでも性的なことを口に出せないひとがいます。必要なときには正しいことばではつきりと話すことはHではありません。あまり恥ずかしがりすぎてだれにも相談せず、ひとりで悩んでノイローゼになるようなばかなことはしないでください。性欲が強いことはけつして恥ずかしいことではありません。

わたしの勤務している学校は中学・高校の男子校ですが、わたしにこっそりと相談にきて、安心して帰った生徒は何人もいます。ここでは、ふたつだけその例を話しましょう。

ひとりで悩みつづけていたA君

A君は高二の春、数学の試験中にとつぜん射精しました。

「先生、トイレに行かせてください」

と、試験を途中で退場しました。A君は本当にびっくりしたのです。その後なにごともなく過ごしましたが、また同じ先生の数学の間試験がありました。A君はまえのことがあったのを忘れることができませぬ。試験中にあんなことがなければよいがと、心配しながら試験を受けていました。ところが、とつぜん心配していたことがおこったのです。前回と同じく試験を途中で退場しました。そしてまた一学期の期末試験でも同様でした。数学の先生に呼びだされ、

「おまえの数学の成績が出せない。ほかの科目はよくできているのにどうしてわたしの試験のときだけいつも途中で試験を放棄するのか」

と、しかられました。しかし、恥ずかしくてとても本当のことがいえなかったのです。

二学期にも同様だった彼は、悩んでノイローゼのようになり性格まで暗い生徒になっていきました。これでは自分の将来はまっくらだ、大学入試のときにはどうなるだろうと思ひあぐねた彼は、中学二年の生物の時間でわたしから教わった生殖にかんする授業のことを思い出し、勇気をだして職員室に相談にきました。

「先生ちょっと話を聞いてください」

という彼の真剣な表情から、わたしはきつとひとにはいいにくい重大なことにちがいない、ここではまっすいと感じました。

「ゆつくり、話を聞きたいので」

と、彼を応接間に連れていって、上記のような事情を聞いたのです。

「どうしてひとりで長いあいだ悩んでいたの、もっと早く相談にすればよかったのに。そんなことならすぐに治るのに」

と、わたしはいいました。さっそく校医さんと電話で相談し、彼を連れていきました。彼の希望でこのことは、親にもいわないわたしとの秘密にしました。

相談したあと、A君は以前の明るさにもどりましたし、校医さんからもらった精神安定剤などによって、つぎの試験からまったくその心配もなくなり、数学の成績もおどろくほど向上しました。そして、国立大学の医学部に現役で合格しました。

これはほんの一例です。このほか、自分のベニスが異常に小さいと悩むひと、自分の性欲が異常だと気に病む者など、わたしはいままでたくさん秘密の相談を受けました。

このようなときに、正しいことばで家族や医師や先生や友だちなどに相談することをけつして恥ずかしがらないでください。精神衛生上たいせつなことです。

#### 生涯つづく性欲とのたたかい

ある日、ひとりの生徒が深刻な顔で職員室のわたしをたずねてきました。わたしはA君のときのように「応接室にきなさい」といって先に行つてストーブのスイッチを入れました。